

魅力発信！えひめ農業

令和6年7月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業＞農業＞農産園芸課＞農産物の生産振興

※2 この動向は、7月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

目次

目次	1
7月のトピックス5選	3
いちご萎黄病・炭そ病対策講習会を実施	3
移住就農者等がイノシシ対策会（仮称）を発足	3
かんきつ基盤整備園でスマート農機を実演	4
ブロッコリーにおけるドローン防除実証の実績及び今後の方向性について報告	4
新規就農予定者に向けて補助事業説明会と交流会を実施	5
えひめ農業	6
■東予地方局 地域農業育成室	6
県立丹原高校で GLOBALG. A. P. 認証を支援	6
かき「太天」の大玉づくりを支援	6
就農初期農業者が制度資金や花木について学ぶ	7
グループLINE「東予農業者のつどい」が活躍中	7
■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	8
花木園地巡回及び「うまの花」の周年出荷検討	8
労働力確保に向け地元人材派遣会社と連携した検討会を開催	8
■今治支局 地域農業育成室	9
新規採用職員が水管理や熱中症対策の徹底を指導	9
上浦地区再編復旧園の営農計画を協議	9
カメラ映像からニホンザルの習性が明らかに	10
さといもの萌芽不良対策マルチについて検討	10
スマート農業技術による水稻の水管理の自動化	11
■今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班	11
一次産業女子の交流会並びに現地研修会を開催	11
上島町かんきつ摘果講習会を開催	12
高校生と中学生がかんきつ栽培を体験	12
■今治支局 産地戦略推進室	13
「しまなみみんなのディッシュ」会員の産品を高速道路サービスエリアで販売	13
中学生へのオリーブ栽培体験会を実施	13
甘長とうがらしで低コスト肥料栽培を本格的に実施	14
新たな商品の開拓に向けたイタリア野菜類生産者の確保	14
■中予地方局 地域農業育成室	15
果菜類における天敵利用技術の普及	15
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	15
「ひめの凜」の品質向上に重要な中干し等の研修会を開催	15
さといも「媛かぐや」の定植後の管理を指導	16
■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班	16

旬を迎えた久万高原町特産トマトを PR.....	16
小学生が雑穀を使用した「クマ式きび ² ナン」を調理.....	17
■中予地方局 産地戦略推進室.....	17
猛暑に負けるな！紅プリンセスも日焼け対策.....	17
パクチーの周年安定出荷に向けて今年度の取組みを協議.....	18
「さくらひめ」の生産振興と収益性の向上を目指して.....	18
■南予地方局 地域農業育成室.....	19
高級菓子用果実の生産拡大に向け意識統一！.....	19
就農支援システムを活用し、就農希望者と受入農家（親方）のマッチングが成立.....	19
ラジコン草刈機等による畦畔管理の実証.....	20
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班.....	20
もも園における吸蛾類の発生状況を調査.....	20
イネカメムシの発生に対応した早期米の出穂期防除を呼びかけ.....	21
■南予地方局 産地戦略推進室.....	21
「つるむらさきの日」を県内で事前 PR！.....	21
県外でつるむらさきの販促活動&取扱状況調査.....	22
■八幡浜支局 地域農業育成室.....	22
南予儲かる農業人材育成事業に係る温州みかんのマルドリ栽培実証ほの設置.....	22
かんきつの摘果及びカメムシ防除等について講習会を実施.....	23
∞農 Harvest 会員が他地区一次産業女子と交流.....	23
■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班.....	24
かき「刀根早生」の着色促進技術の普及及び新たな実証を開始.....	24
青年農業者ほ場で農業高校生が研修会を実施.....	24
■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班.....	25
百姓百品で女性グループによる弁当販売を開始.....	25
品質向上に向けた野菜栽培講習会を開催.....	25
■八幡浜支局 産地戦略推進室.....	26
保水材で夏季の青ネギの生育促進を目指す.....	26
■農産園芸課 高度普及推進グループ.....	26
東予地区におけるさといも栽培管理の意識統一.....	26
県育成水稻品種「ひめの凜」穂肥講習会の開催.....	27

7月のトピックス5選

標 題	いちご萎黄病・炭そ病対策講習会を実施		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年7月30日	場所	東予地方局西条第二庁舎	
指導対象	管内いちご生産者等（17人）	連携機関	農林水産研究所、病害虫防除所、JA（周桑、東予園芸、えひめ未来）	
普及指導内容	<p>○近年、育苗期の最重要病害である萎黄病と炭疽病の発生が管内で増加しており、生産者の収益に多大な影響を及ぼしていることから、対策講習会を実施した。</p> <p>○両病害の生態や最新の試験研究成果について情報提供するとともに、講習会前に生産者に実施した育苗管理方法の実態調査の結果に基づき、多くの生産者に見落とされていた育苗ハウス内の洗浄や消毒などの対策を紹介した。</p>			
結果と今後	<p>○講習会後に実施したアンケートでは、全ての生産者が内容に満足したと答えた。</p> <p>○特に、育苗ほの床に堆積した土や残渣に多量の萎黄病菌が潜伏しているとの試験結果への反響が大きく、床の清掃及び消毒を徹底したいと回答した生産者が多かった。</p> <p>○当室では、引き続き農林水産研究所と連携しながら、両病害に効果的な対策を検討するとともに、JAと連携しながら巡回指導を実施し、優良苗育成の支援を行っていく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>講習会</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>生産者から質問が飛び交った</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>萎黄病罹病株のちに枯死する</p> </div> </div>				

標 題	移住就農者等がイノシシ対策会（仮称）を発足		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和6年7月19日	場所	今治市大三島町肥海	
指導対象	肥海地区移住就農者等（6人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○大三島町肥海地区の移住就農者を中心に、イノシシの被害防止に向けた取組みを検討し、捕獲活動等を効率的に実施するための任意団体の立ち上げを協議した。</p> <p>○当室からは、捕獲技術の習得を支援するため、同地区で現在実証展示している ICT 活用大型捕獲檻（センサーカメラとリアルタイムネットワークの組合せ）でのイノシシの捕獲状況や餌付け、同捕獲檻への誘導の映像を交え、箱わなの設置、餌付けのポイントについて説明した。</p> <p>○また、狩猟免許の取得や鳥獣被害対策に活用できる各種助成制度について紹介し、農業者自らが能動的な対策を実施できるよう啓発を行った。</p>			
結果と今後	<p>○移住就農者等9人による肥海地区イノシシ対策会（仮称）の発足が決定した。</p> <p>○メンバーは、同 ICT 活用大型捕獲檻での捕獲活動の協力や、同会員の被害ほ場周辺での箱わな設置を始め、捕獲技術の習得にも意欲を示していた。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>左：捕獲技術の研修</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>右：大型捕獲檻での捕獲（R5.8）</p> </div> </div>				

標 題	かんきつ基盤整備園でスマート農機を実演		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年7月9日	場所	松山市下難波	
指導対象	下難波地区基盤整備受益農家（10人）、中予地区柑橘農業復興・再編ワーキングチーム（36人）	連携機関	JA えひめ中央、愛媛大学、県農林水産研究所、農村整備第一・二課	
普及指導内容	<p>○管内8地区で「農地中間管理機構関連農地整備事業」等を活用したかんきつ園地の基盤整備が進められる中、整備された園地での省力・軽労働化に向けたスマート農業技術の導入を図るため、関連農機の実演会を開催。</p> <p>○実演会では、ほぼ平坦で作業道も広く既に営農を開始しているほ場（20a）において、実用化されているリモコン操作の草刈り機（神刈 RJ703）と愛媛大学が開発中の傾斜地でも荷台を自動で水平に保つ運搬台車を走行させた。</p>			
結果と今後	<p>○草刈り機の操縦を体験した農家からは、「操縦も簡単で大変楽、機械による草の刈り具合も良好」との声が聞かれ、軽労働化と実用性を体感した。</p> <p>○当室では、樹園地の基盤整備地が未来型産地モデルとなるよう、省力技術の導入はもとより、収益性の高い品種導入や施設化、土づくり等の支援を実施する。</p>			
 			<p>左：ラジコン草刈り機の実演</p> <p>右：荷台を自動で水平に保つリモコン運搬台車</p>	

標 題	ブロッコリーにおけるドローン防除実証の実績及び今後の方向性について報告		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和6年7月2日	場所	JA えひめ南 南宇和営農センター	
指導対象	野菜部会南宇和支部会員（20人）	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○当班は、水田の有効利用品目として、ブロッコリーの産地振興に取り組んでいる。</p> <p>○近年、生産者の減少・高齢化に伴い、省力化技術の重要性が高まっているため、令和5年度からドローン防除実証を行っており、手散布と同等の防除効果を得た実証結果や今後の方向性について部会員に説明し、意識統一を図った。</p>			
結果と今後	<p>○質疑応答では、「ドローンの導入経費はどれほどか」「植物体が大きくなるにつれ、手散布に比べ防除効果が落ちるのでは」等、活発な質問があり、部会員の関心の高さがうかがえた。</p> <p>○引き続きドローン防除の効果検証に取り組み、ドローンを組み込んだ省力的な防除体系の確立を図るとともに、地域内の作業受託の可能性を追求する。</p>			
			<p>実証結果：チョウ目害虫の発生状況①</p> <p>2回目散布（7/18）後、試験区は対象区とほぼ同様に推移</p>  <p>左：生産者への報告</p> <p>右：R5 実証結果</p>	

標 題	新規就農予定者に向けて補助事業説明会と交流会を実施		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和6年7月24日	場所	南予地方局八幡浜支局	
指導対象	農業次世代人材投資事業（就農準備資金）に係る交付対象者及び受給者14人	連携機関	JAにしうわ、八幡浜市、伊方町、公益財団法人えひめ農林漁業振興機構	
普及指導内容	<p>○就農を志す研修生に対し、就農に向けた準備支援を目的に、農業次世代人材投資事業（就農準備資金）の概要や申請方法（必要書類、スケジュール）等についての説明会を実施した。</p> <p>○説明会后、研修生OBを招き、現研修生との交流会を実施した。</p> <p>○この交流会は、研修生が就農後の営農イメージを掴み、就農にあたっての不安を解消してもらうことを目的としている。</p>			
結果と今後	<p>○研修生は「実際に就農してからの経営状況」や「資金や農機具の準備」などについて相談。OBらは「最初のうちはやれる範囲でやっていこう」「日々の農作業におもしろみを感じて取り組むのが大切」などと、経験をふまえてアドバイスした。</p> <p>○今後も、新規就農者の指導巡回を徹底し、研修生の定期面談を実施することで、八西地区の将来を担う農業者の早期定着を目指す。</p>			
				<p>左：補助事業説明会の様子</p> <p>右：活発に意見交換する参加者</p>

えひめ農業

標 題	県立丹原高校で GLOBALG. A. P. 認証を支援		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年7月12日	場所	県立丹原高校	
指導対象	県立丹原高校園芸科学科（5人）	連携機関	農産園芸課	
普及指導内容	<p>○当室では、ぶどうの GLOBALG. A. P. 認証に取り組む県立丹原高校園芸科学科を継続的に支援している。</p> <p>○GLOBALG. A. P. は、毎年、認証機関による更新審査が行われ、事前の内部検査が必須となっている。</p> <p>○今年は、審査内容が Ver. 5 から Ver. 6 となって初めての検査でもあり、内容を十分確認しながら検査を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○検査の結果、不備な点の是正を指導。審査会社へ是正結果を提出のうえ、8月1日に更新審査が行われる。</p> <p>○なお、認証されたぶどうは、9月に台湾で行われる愛媛フェアに合わせて輸出され、生徒が現地で販売することとなっている。</p>			
<p>【GLOBALG. A. P. 認証とは】</p> <p>GAP は、GOOD（適正な）、AGRICULTURAL（農業の）、PRACTICES（実践）の略。</p> <p>GAP 認証とは、食品安全、労働環境、環境保全に配慮等を実践し、国際基準を満たしていることを証明する民間の認証制度。</p>		 <p>内部検査の様子</p>		

標 題	かき「太天」の大玉づくりを支援		機関名	東予地方局地域農業育成室	
年月日	令和6年7月16日	場所	西条市 田野		
指導対象	生産者（25人）	連携機関	JA（周桑、東予園芸）		
普及指導内容	<p>○「太天」の大玉生産と果実品質向上を図るため、摘果講習会を開催した。</p> <p>○講習会では、「太天」に出やすい奇形果や傷果を摘果するとともに、摘果の目安である時期別の果実横径を示し、大玉生産への意識統一を図った。</p> <p>○今年はカメムシの発生が多いため、防除の徹底について産地が一体となって取り組むよう指導した。</p>				
結果と今後	<p>○果樹カメムシ類については、県で警報が発表されるなど、今後も大量の飛来が予想されることから、各園地での発生状況を調査し、生産者と関係機関で情報共有するとともに、速やかに防除できる体制を整えておく。</p>				
<p>【太天（たいてん）】</p> <p>1果重が550～600gと大きく、見栄えがすることから、高単価で取引され、生産者の栽培意欲も高い。</p>		 <p>摘果講習</p>	 <p>奇形果（ツノ果）</p>		

標 題	就農初期農業者が制度資金や花木について学ぶ		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年7月24日	場所	東予地方局西条第二庁舎	
指導対象	新規就農者、就農予定者他（31人）	連携機関	JA（えひめ未来、周桑）、新居浜市、西条市、日本政策金融公庫、農業共済組合	
普及指導内容	<p>○当室では、新規就農者及び就農予定者を対象に、農業経営に必要な知識や技術の習得のため「就農初期農業者研修会」を定期的で開催している。</p> <p>○本会の開催は、今年度4回目となり、「青年等就農資金」、「収入保険制度」や「花木の有望品目について」の講演、「生育障害」「さといも疫病対策」等の情報提供を行った。</p> <p>○研修終了後には、それぞれ関係機関ごとにブースを設けて、個別相談会を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○出席者からは「制度資金や収入保険について学ぶことができた」「将来、花木を経営に取り入れたいと思う」など、研修内容を農業経営に生かそうとする声が聞かれた。</p> <p>○今回、花木栽培への高い関心が感じられたため、今後開催予定の研修では、花木の実証ほ見学会や挿し木の実技研修を組み込むなど、内容の充実を図りながら、新規就農者等の早期自立と地域での活躍を促していく。</p>			
				<p>左：有望花木の展示</p> <p>右：個別相談会</p>

標 題	グループLINE「東予農業者のつどい」が活躍中		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年7月26日	場所	西条市内	
指導対象	就農初期農業者（5人）	連携機関	-	
普及指導内容	<p>○当室では、新規就農者の情報共有や交流を図るため、受講生限定のグループLINE「東予農業者のつどい」を開設し、運用を支援している。</p> <p>○グループLINEは、各種研修会の案内、病虫害発生予察等の情報提供をはじめ、グループメンバー間での農業機械の貸借、作業手伝い、余り苗の無償提供など、有効に活用されており、市町の枠を超えた活発な交流が生まれている。</p> <p>○今回は、グループの一人が、祖父母が利用していた不要な農業資材を貰って欲しいと呼びかけ、希望者への受け渡しが行われた。</p>			
結果と今後	<p>○メンバーからは「ありがたい」「さっそく貰った育苗トレイでタマネギ苗を立てたい」「農業女子達と交流ができた」などの声が聞かれている。</p> <p>○また、農業資材の提供者からは「これまで有償で処分していたので助かった」と、グループLINEをきっかけとした交流を喜んでいた。</p> <p>○当室では、今後も就農相談者等に「東予農業者のつどい」への参加を呼びかけ、メンバー同士の交流を深めながら、労働補完や資材有効活用を支援していく。</p>			
				<p>左：資材の受け渡し</p> <p>右：農業資材と一緒に記念写真</p>

標 題	花木園地巡回及び「うまの花」の周年出荷検討		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和6年7月5日	場所	四国中央市内花木栽培ほ場	
指導対象	花木生産者（3人）、新規就農者（2人）	連携機関	JA うま、産地戦略推進室、花き研究指導室	
普及指導内容	<p>○「うまの花」として評価されているピットスポラム等の栽培技術向上を目的に、管内の生産者がせん定、防除、収穫方法等を互評する園地巡回を開催した。</p> <p>○JA からは市場の花木取扱状況や今後の有望品目の説明、当班からは出荷計画をとりまとめるなど、新規品目の導入による周年出荷体系の確立に向けた検討を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○出席した生産者は、仲間や指導者と栽培技術を交換し技術向上を図り、新規就農者にとっては、花木導入の検討材料につなげることができた。</p> <p>○特に、ポポラスベリーの園地では、花き研究指導室から栽培状況や市場動向、出荷方法や収穫後の管理の説明を受け、参加者は新品目としての魅力を肌で感じていた。</p> <p>○今後、新規品目の挿し木講習会等を行い、優良種苗を安定的に確保し、花木の生産拡大と「うまの花」の周年出荷体系の確立を目指すこととしている。</p>			
			<p>左：先輩が新規就農者へ栽培技術を伝授</p> <p>右：出荷方法等を新規就農者へ指導</p>	

標 題	労働力確保に向け地元人材派遣会社と連携した検討会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和6年7月9日	場所	JA うま総合経済センター	
指導対象	四国中央市内の農作業受託組織	連携機関	四国中央市、JA うま	
普及指導内容	<p>○四国中央市では、主要農産物（さといも、やまのいも、茶）の生産量確保や品質維持を図るため、労働力の確保が重要な課題となっている。</p> <p>○そこで、地元人材派遣会社と連携し、外国人材を含む有期労働者の確保や作業受託体制の整備等に関する検討会を開催した。</p> <p>○会議では、同社から、特定技能外国人材の活用事例や、新たな育成就労制度の説明のほか、県内外の取組事例の報告を受け、今後の取組みの方向性等を検討した。</p>			
結果と今後	<p>○労働力不足の課題を共有するとともに、有期労働者の通年雇用に向けた年間作業体系の構築や受入施設の整備等を受け、引き続き情報を収集することとなった。</p> <p>○JA 等においては、同社と連携を密に図りながら、外国人労働力の活用に向けた検討を進め、早期に取組みの実現を目指すこととなった。</p>			
			<p>特定技能外国人材の活用等について検討</p>	

標 題	新規採用職員が水管理や熱中症対策の徹底を指導		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年7月24日	場所	さいさいきて屋、JA おちいまばり日高支店	
指導対象	さといも生産農家 (38人)	連携機関	JA おちいまばり、農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○農林水産研究所等と連携し、管内2か所で栽培講習会を開催した。</p> <p>○室内講習では、新規採用職員が、かん水及び排水対策や雑草対策を説明するとともに、酷暑に伴う熱中症対策を指導した。</p> <p>○現地講習では、土壌水分計 (pFメーター) を用いてかん水時期や間隔等を指導するとともに、春先の降雨により定植が遅れ、生育が遅れているほ場については、通常より遅い時期までのかん水呼び掛けた。</p>			
結果と今後	<p>○講習会では、疫病や腐敗芋 (軟腐・乾腐病) の防除時期についての質問が寄せられた。ことから、当室では、引き続き関係機関と連携し、ほ場巡回等により栽培後期の管理指導を徹底していく。</p>			
				
水管理の重要性等を指導		新規採用職員がかん水管理を指導		pFメーターで水分管理を徹底

標 題	上浦地区再編復旧園の営農計画を協議		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年7月26日	場所	JA おちいまばり営農経済事業部	
指導対象	上浦地区再編復旧関係機関 (10人)	連携機関	農村整備課、JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○今治市大三島上浦地区の再編復旧園各工区の状況と今後の営農計画等を協議するため、JA、農村整備課等の担当者による会議を開催した。</p> <p>○当室からは、春に植栽した苗木の生育状況、梅雨後の土壌流亡の様子やその対策として施したソイルセメントによる承水路の設置効果等を、ドローンで撮影した現地映像を用い報告した。</p>			
結果と今後	<p>○営農が再開された工区では、苗木や緑肥作物 (ソルゴー) の順調な生育状況や、表面水を排水する承水路の効果を確認できた。</p> <p>○今後、流亡の激しい工区で緩傾斜化の工事が行われるとともに、修復工事が終わり次第、緑肥作物を播種し、たい肥投入 (200t) による土づくりに取り組むことが関係機関で了承された。</p> <p>○当室では、引き続き現地において早期成園化を支援する。</p>			
				
関係機関による協議		ドローン映像による現地の説明		盛工区 (ドローン映像)

標 題	カメラ映像からニホンザルの習性が明らかに		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年6月14日	場所	今治市古谷	
指導対象	なし農家（3人）	連携機関	岡山理科大学、農産園芸課、農林水産研究所	
普及指導内容	○昨年ニホンザルによる壊滅的な被害を受けたなし園地に、センサーカメラ11台を設置し、園地への侵入経路を明らかにするとともにサル習性等について検討した。			
結果と今後	○センサーカメラの映像から、①サルは、園地外の雑木から防風ネットを設置するために立てているポールに飛び移り侵入していること②サルの跳躍力は、足場が固定できる場合、成獣で3m以上になることが判明した。 ○このため、園地外周囲の3mの枝を伐採するとともに、ポール周辺3m内に伐採できない木がある場合には、サルが飛び移れないよう、電気柵やポールに鉄条網を巻くなどの対策を講じた。 ○今後、岡山理科大学等とも連携し、今回講じた対策の効果等を検証するなどして、引き続きサル被害対策技術の確立に取り組む。			
  				
周辺木からポールに飛ぶサル		周辺雑木の伐採		ポールへの鉄条網の設置

標 題	さといもの萌芽不良対策マルチについて検討		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年7月12日	場所	(株)ファーム咲創事務所 現地実証ほ	
指導対象	(株)ファーム咲創	連携機関	JAおちいまばり みかど化工株式会社	
普及指導内容	○さといもの排水不良田で発生する萌芽不良対策のために、マルチを製造する「みかど化工(株)」に、マルチの両サイドに孔を開けた特殊マルチの製造を依頼した。 ○特殊マルチ設置日には、実証ほ場において萌芽の状況等を確認するとともに、萌芽不良の原因や特殊マルチの効果等について関係機関と協議した。			
結果と今後	○5月上旬に定植した実証ほ場では、特殊マルチ区はほぼ萌芽したものの、慣行マルチ区では、マルチに穴が全く開いていないため萌芽不良が確認された。 ○関係機関と協議した結果、次年度は、機械定植を計画しているさといも2haで特殊マルチを導入することが決定した。 ○当室では、引き続き、特殊マルチの効果やマルチの強度等についても確認を行う。			
  				
5月下旬の豪雨による滞水		萌芽状況（左：特殊マルチ）		関係機関による実証結果の協議

標 題	スマート農業技術による水稲の水管理の自動化		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年7月9日	場所	今治市朝倉上	
指導対象	水稲生産者（2人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○水稲実証ほ場2か所において、水位や水温が測定できるセンサー及び自動で水口を開閉できる給水ゲートを設置するとともに、実証農家にスマートフォンアプリの操作方法等を指導した。</p> <p>○今回実証するシステムでは、リアルタイムで水位等がスマートフォンで確認できるとともに、設定した水位に応じて自動でゲート開閉が可能になる。</p>			
結果と今後	<p>○大規模農家を中心にスマート農業技術の期待は高く、水管理の自動化で労働時間の大幅な軽減が図られるだけでなく、水管理のデータを可視化することにより栽培管理の向上が期待できるため、今後も実証等を通じて同システム等の普及拡大に努める。</p>			



水口に設置した給水ゲート



設置した中継基地局



アプリの操作方法を説明

標 題	一次産業女子の交流会並びに現地研修会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和6年7月18日	場所	今治市上浦町	
指導対象	しまなみ、今治地区一次産業女子（12人）	連携機関	八幡浜支局地域農業育成室 ∞農 Harvest（8人）	
普及指導内容	<p>○次世代の農山漁村を担う一次産業女子が農業の魅力・情報発信や所得向上を目指すとともに、他地区の会員との交流によりネットワークの強化を図ることを目的に、八西地区の一次産業女子（∞農 Harvest）との視察・交流研修会を開催した。</p> <p>○それぞれの活動事例を発表後、少人数でのグループトークを行い、農業に関することだけでなく、私生活との両立の悩みなど幅広く意見交換を行った。</p> <p>○現地研修では、紅まどんなの低コストハウスを視察し、巻上げ式防草シートやかん水チューブ等、省力化技術について研修を行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「女性農業者として、さまざまな境遇の方から話を聞いたことで、今後の自分自身の農業やライフスタイルについてしっかりと考えることができ、とても有意義な時間になった」という意見があった。</p> <p>○参加者は、八西地区団体の活動に刺激を受け、今後は定期的に集まって情報交換、研修会等を実施し、農業所得の向上等に向けて積極的に取り組んでいくこととなった。</p>			



左：小人数でのグループトーク

右：低コストハウスを視察

標 題	上島町かんきつ摘果講習会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和6年7月4日	場所	しまなみ農業指導班岩城駐在	
指導対象	上島町かんきつ生産者（50人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○当班では、JAと連携して、今年のかんきつ類の作柄に応じた摘果の考え方や、品種ごとの摘果方法を指導した。</p> <p>○その後、当班から、駐在所内の主要かんきつ類を用いて、粗摘果の程度や注意点について、実演による技術指導を行った。</p>			
結果と今後	<p>○かんきつ栽培全般における質問が多くあり、生産者の関心の高さが伺えた。</p> <p>○岩城駐在では、実証園地において、上島町全町を対象にした「かんきつ主要作業の講習会」を開催しており、生産者への栽培技術指導を含め、効率的な普及活動を行っている。</p>			



左：摘果方針と摘果技術の資料説明
右：摘果技術の実演

標 題	高校生と中学生がかんきつ栽培を体験		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和6年7月1～5日	場所	しまなみ農業指導班岩城駐在	
指導対象	県立丹原高校園芸科学科（18人） 上島町立岩城中学校（1年生19人、 2年生2人） 上島町立弓削中学校（18人）	連携機関	県立丹原高校、上島町	
普及指導内容	<p>○当班では、農業に興味を持つ東予管内の中高生の農作業実習を受け入れ、農業の魅力を伝えた。</p> <p>○県立丹原高校の生徒には、かんきつの年間管理作業や島しょ部で栽培される品種について説明し、レモンの収穫作業の実習を行った。</p> <p>○上島町の中学1年生は、島特産のレモンの収穫や温州みかんの摘果作業の実習を行い、岩城中学校の2年生は、5日間にわたって摘果作業や「紅まどんな」の枝つり、ハウスの補修作業などの実習を行った。</p>			
結果と今後	<p>○体験した生徒は、適期作業の重要性や夏季の管理作業が生育に大きな影響を与えることなど、理解を深めた。</p> <p>○上島町の中学生は、12月に温州みかんの収穫体験を行う予定。</p> <p>○当駐在では、農業が将来の職業候補として選択肢の一つとなるよう魅力を発信していく。</p>			



かんきつ栽培について説明



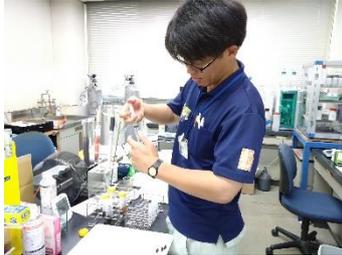
レモンの収穫作業を体験



摘果作業を体験

標 題	「しまなみみんなのディッシュ」会員の産品を 高速道路サービスエリアで販売		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和6年6月28日～7月17日	場所	来島海峡サービスエリア	
指導対象	「しまなみみんなのディッシュ」会 員（5人）	連携 機関		
普及指導 内容	○当室は、来島海峡サービスエリアで土産品等の販売を行う（株）瀬戸内しまなみリーディングへの営業活動を支援しており、期間限定で販売フェアの開催が実現した。 ○販売フェアは、「しまなみみんなのディッシュ POP-UP」と題し、会員のうち5事業者が参加し、6月28日から7月17日まで開催された。			
結果と今後	○来島海峡サービスエリア内の物販コーナーに、「しまなみみんなのディッシュ」専用ブースを設置し、5事業者が製造販売するジャムやジュース、お菓子など、合計28種の産品を販売した。 ○今後も、同様の販売フェアやイベントへの参加を促進し、販売チャネルの増加による地元農産物の販売促進と営業実績につなげる。			
			「しまなみみんなのディッシュ」専用販売ブース	

標 題	中学生へのオリーブ栽培体験会を実施		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和6年7月17日	場所	今治市吉海町	
指導対象	オリーブ生産者、 今治市立大島中学校生徒（22人）	連携 機関	NPO 法人アクションアイランド 今治市立大島中学校	
普及指導 内容	○オリーブ生産者（NPO 法人）及び今治市立大島中学校と連携し、同校の生徒22名に対して、大島の特産物であるオリーブ生産への興味と理解を深めてもらうための栽培体験会を行った。 ○体験会では、除草などの管理作業の体験と、オリーブの栽培や大島への導入経緯等の講義、オリーブオイルの試食などを行った。			
結果と今後	○中学生からは、「地元のオリーブがよく分かった」「大島産のオリーブオイルは香りが独特でおいしい」などの声が聞かれ、体験会をきっかけに大島のオリーブ生産への理解がより深まった。 ○今後も、オリーブ生産者らと連携し、秋の収穫祭などを通じてオリーブとその加工品のPR及び販売促進を行う。			
				
	管理作業の体験		導入経緯の講義	

標 題	甘長とうがらしで低コスト肥料栽培を本格的に実施		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和6年7月5日	場所	今治市玉川町	
指導対象	甘長とうがらし生産者（1人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○肥料価格高騰対策として、管内の甘長とうがらし高設栽培園地で、昨年から試験的に取り組んでいた単肥配合及び廃液再利用技術について、7.2a のハウス全体で本格的な実証を始めた。</p> <p>○あわせて、培土や養液・廃液中の肥料成分をモニタリング・分析し、データに基づいた効果的・効率的な施肥を行う。</p>			
結果と今後	<p>○これまでの実証結果から、単肥配合技術によって肥料コスト 54%の削減を期待している。</p> <p>○あわせて、廃液再利用を組み合わせることでさらなるコスト削減を目指す。</p> <p>○今後はいちごなど他品目にも拡大して実証し、IoT 技術を利用した「どこに居てもスマホで見える化」を図る。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>改植に合わせて単肥配合を本格導入</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>廃液を回収し再利用</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>養液と培土中の肥料成分を分析</p> </div> </div>				

標 題	新たな商品の開拓に向けたイタリア野菜類生産者の確保		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和6年7月5日	場所	上島町岩城	
指導対象	イタリア野菜類栽培者（2人）	連携機関	JA おちいまばり、(株)愛媛海産	
普及指導内容	<p>○新たな商品の開拓に向けた生産者確保のため、イタリアトマト生産者に栽培状況調査と現地ほ場確認を実施するとともに出荷意向を確認した。</p> <p>○正品に適さない小さすぎる果実や奇形果など、正品出荷ができない果実は全体で約300 kg発生しており、サンプルを(株)愛媛海産に持ち込み、加工原料としての利用について協議した。</p>			
結果と今後	<p>○(株)愛媛海産は、「品目の魅力は大いにある」「安定的に購入できるのであれば前向きに検討する」としながらも、現時点の供給量では同社の需要に答えることが難しいとの判断から、継続事案となった。</p> <p>○なお、正品果実については、8月上旬に「しまなみみんなのディッシュ」のアドバイザーであるイタリア料理店「ロカンダ デル クオーレ」にサンプルを持ち込み、メニュー化等に向けた協議を行うこととしている。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>栽培状況と出荷意向の確認</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>現地ほ場の確認</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>栽培状況の確認</p> </div> </div>				

標 題	果菜類における天敵利用技術の普及		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年7月4日	場所	松山市太山寺、伊台	
指導対象	施設野菜農家（3人）	連携機関	JA（松山市、えひめ中央）	
普及指導内容	<p>○地方局予算「なす産地強化対策事業」（R3～5年度）を活用し、施設なすでアザミウマ類及びコナジラミ類の被害軽減策として、土着天敵であるタバコカスミカメによる環境に配慮した防除技術を確立したことから、当室では他の野菜への横展開を図っている。</p> <p>○施設きゅうりや施設トマトでも同様の害虫による被害が見られることから、土着天敵のタバコカスミカメを放飼し調査を開始した。</p>			
結果と今後	<p>○今後、施設栽培での害虫の発生や果実の被害状況を調査し、土着天敵の有効性を確認する。</p> <p>○また、露地栽培でも効率的なタバコカスミカメの誘引と定着を促すため、天敵温存植物であるゴマをほ場に植栽し、誘引状況を確認するなど、天敵利用技術について検討する。</p>			
				<p>左：施設トマトにタバコカスミカメを放飼</p> <p>右：土着天敵を誘引するためのゴマの苗</p>

標 題	「ひめの凜」の品質向上に重要な中干し等の研修会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和6年7月9日	場所	JA えひめ中央伊予中央支所及び伊予市尾崎地区他	
指導対象	「ひめの凜」認定栽培者（76人）	連携機関	JA（松山市、えひめ中央）、農産園芸課、県農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○「ひめの凜」の美味しさ基準をクリアするため、品質向上に最も重要な水管理について講習会を開催した。</p> <p>○講習会では、根の活力を高め、無効分けつを抑制するために、水田の水を抜き土壌を乾かす中干しの方法や、今後の病虫害などの栽培管理を指導した。</p> <p>○ほ場では、参加者が稲の茎数や葉色などを確認し、中干しを開始する時期の目合わせを行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は、中干しの開始時期や実施期間、他の品種との違いなどを把握することができ、中干しの重要性を再認識した。</p> <p>○今後は、粳を充実させるための穂肥の施用時期等の講習会を開催し、品質向上を目指す。</p>			
				<p>左：水管理等の講習</p> <p>右：中干し時期の確認</p>

標 題	さといも「媛かぐや」の定植後の管理を指導		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和6年7月22日	場所	伊予市、松前町、砥部町の栽培ほ場	
指導対象	媛かぐや栽培農家（11人）	連携機関	JA松山市、県農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○地方局予算「媛かぐや産地育成事業」により、さといも県育成品種「媛かぐや」の産地化に向け取り組んでおり、6月上旬から7月上旬にかけて、11戸の生産者が15a（新規8戸、9aを含む）で定植を行った。</p> <p>○今年度は購入苗に加え、当班が指導した自家育苗セル苗（3戸、6a）も定植し、生育状況を調査することとしている。</p> <p>○「媛かぐや」は一般のさといもより浅植えすることから、苗が活着するまで、かん水や定植直後の病害虫防除などを適切に管理するよう指導した。</p>			
結果と今後	<p>○梅雨明けから夏季にかけて、かん水の徹底等により、適正な加工向けサイズ（1kg程度/個）の安定生産を目指す。</p> <p>○本品種が有する加工適性を活かし、一次加工事業者と連携した販路開拓に取り組む。</p>			
				<p>左：定植を行う生産者 右：生育途中の「媛かぐや」 （奥側は愛媛農試 V2 号）</p>

標 題	旬を迎えた久万高原町特産トマトを PR		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和6年7月22日	場所	久万高原町明神	
指導対象	トマト生産者（2人）	連携機関	JA松山市、食ブランドマーケティング課	
普及指導内容	<p>○テレビ愛媛の番組「ゆ〜ばら！」の農家を訪れ農産物について話を聞くコーナーで、旬を迎えた夏秋トマトを紹介しPRを行った。</p> <p>○当班では、出演する生産者に対し、久万高原産夏秋トマトの特色や魅力がより伝わるPRの仕方について、助言をした。</p> <p>○JA トマト部会員の若手生産者とその配偶者が出演し、栽培や調理方法を紹介するなどトマトの魅力を発信した。</p>			
結果と今後	<p>○放送は8/10（土）17:00～と8/17（土）17:00～で、2週に分けて放送予定。</p> <p>○中予地方局のSNSでも番組の紹介を行い、広く周知。</p> <p>○多くの県民が視聴する番組で、久万高原町における夏秋トマトの栽培状況や魅力を発信することで、ブランド力の向上と消費の拡大が図れた。</p>			
				<p>左：夏秋トマトの魅力を PR 右：久万高原産夏秋トマト</p>

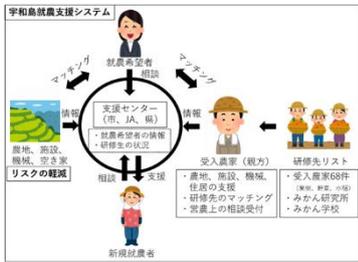
標 題	小学生が雑穀を使用した「クマ式きび ² ナン」を調理		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和6年7月14日	場所	県立上浮穴高校	
指導対象	上浮穴高校生（5人）、えひめ子ども観光大使（14人）、保護者（15人）	連携機関	県立上浮穴高校、久万高原町、NPO 法人えひめ教育技術研究所	
普及指導内容	<p>○上浮穴高校は、雑穀の食文化を次世代の子供たちに伝えるため「えひめ子ども観光大使」を招いて雑穀を使った料理講座を開催した。</p> <p>○同校が開発した、「地とうきび」の粉を練りこんだナンに、代替肉として「たかきび」を使用したカレーをトッピングした「クマ式きび²ナン」の調理方法を、高校生が小学生にレクチャーし、参加者で試食を行った。</p> <p>○当指導班は同校が取り組む料理講座をサポートするとともに、雑穀に関するパネル展示を通して雑穀の活用について紹介した。</p>			
結果と今後	<p>○高校生は、雑穀のクイズや「クマ式きび²ナン」の調理と試食を通して小学生との交流を深め、雑穀の魅力を伝えた。</p> <p>○なお、雑穀の普及と継承に関する同校の取り組みが、愛媛大学社会共創学部が主催する「社会共創コンテスト2024」の地域課題部門でグランプリに輝いた。</p>			
<p>【えひめ子ども観光大使】 NPO 法人えひめ教育技術研究所が愛媛の良さを知り、その魅力を発信できる県内の小学生を毎年認定。</p>				
調理を通して雑穀の魅力を伝える高校生				

標 題	猛暑に負けるな！紅プリンセスも日焼け対策		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年7月17日	場所	松山市難波、伊予市下三谷	
指導対象	愛媛果試第48号生産者（2人）	連携機関	JA えひめ中央	
普及指導内容	<p>○県予算「紅プリンセス生産支援事業」において、「愛媛果試第48号（紅プリンセス）」の高品質安定生産を目指した技術実証に取り組んでおり、昨年、樹冠外周部の果実の約2～3割で発生が確認された日焼け果の軽減に向け、実証を開始した。</p> <p>○実証ほでは、日焼けしやすい上向きの果実を摘果する樹冠表層摘果や果面温度の低下が期待される炭酸カルシウム剤の散布、白色の伸縮性果実袋の被覆等を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○処理時間は、果実袋の被覆が1果当たり約8秒かかるのに対し、炭酸カルシウム剤の散布では1樹（約100果）当たり約80秒で完了した。</p> <p>○今後は、各処理区での経過観察を行い、日焼け果発生程度を調査し、技術対策を確立する。</p>			
				
		<p>左：炭酸カルシウム剤の散布 右：伸縮性果実袋の被覆</p>		

標 題	パクチーの周年安定出荷に向けて今年度の取組みを協議		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年7月3日	場所	JA えひめ中央東部営農支援センター	
指導対象	パクチー生産者、市町担当者、JA 指導員等 (23 人)	連携機関	松山市、東温市、砥部町、JA えひめ中央、県食品産業技術センター	
普及指導内容	<p>○地方局予算「パクチー周年安定生産体制確立事業」に係る第1回対策会議を開催し、これまでの実証結果や販売状況、今年度の栽培実証試験等の取組みについて協議した。</p> <p>○パクチーの周年栽培技術確立に向けた実証試験や加工技術の開発、出荷販売状況、県内外でのPR活動について意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○本年度の新規生産者6人も参加し、7月上旬から収穫を迎える初夏播き作型での栽培のポイントや出荷方法についての知識を深めた。</p> <p>○参加者からは「病害虫防除による正品率向上について知りたい」「PRにつながる食べ方として、お好み焼きや団子も面白いのでは」などの活発な意見が聞かれた。</p> <p>○今後も生産者や関係機関と連携し、パクチーの周年安定生産体制の構築を目指し、ブランド力の向上を図る。</p>			
			<p>左：パクチーの周年安定出荷に向けた取組みを協議</p> <p>右：収穫間近の初夏播き作型(7月)</p>	

標 題	「さくらひめ」の生産振興と収益性の向上を目指して		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年7月26日	場所	中予地方局	
指導対象	「さくらひめ」生産者及び関係機関職員等 (17 人)	連携機関	市場 ((株)大田花き、(株)なにわ花いちば)、JA (松山市、えひめ中央) 農産園芸課、県農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○地方局予算「さくらひめ産地強化事業」に係る適時出荷体制の確立に向けた検討会を開催した。</p> <p>○検討会では、東京や大阪の市場関係者から市場流通の動向報告のほか、当室から夏季自家育苗技術の実証結果や今後の計画、PR活動について報告し意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○市場からは、「さくらひめ」の需要は主にブライダルが多く、3～4月の卒入学シーズンにも引き合いがあることから、草丈70～80cmのバランスのとれた切り花の出荷要望があった。</p> <p>○当室からは、夏季自家育苗により高校卒業式や母の日に対応した出荷につながったことを報告し、今年度も需要期の出荷量増加とコスト低減を目指すこととした。</p> <p>○生産者からは、「引き続き夏季自家育苗に取り組みたい」との前向きな発言があるなど、市場との出荷規格や採算ベース等についても活発な意見が出された。</p> <p>○今後も関連機関と連携し、「さくらひめ」の生産振興と収益性の向上を目指す。</p>			
			<p>左：実証結果や今後の計画について意見交換(東温市)</p> <p>右：夏季自家育苗技術実証ほの生育状況</p> <p>〔実証区(右列)は慣行区(左列)に比べ出荷が15日程度前進〕</p>	

標 題	高級菓子用果実の生産拡大に向け意識統一！		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年7月16日	場所	南予地方局	
指導対象	高級和菓子原料向け果実の生産者 (約20人)	連携 機関	(株)源吉兆庵、JAえひめ南、宇和島市、松野町、鬼北町	
普及指導 内容	<p>○(株)源吉兆庵の工場誘致を機に取り組んできた加工果実生産が10年の節目を迎えるにあたり、関係機関が一堂に会し、各品目の生産実績や今後の生産方針、令和15年度を目標とする供給計画等を協議した。</p> <p>○当室からは、加工に特化した栽培技術実証の取り組みや、本年異常発生したカメムシ対策等の指導状況等について説明した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者の高齢化が進展する中、担い手の掘り起こしや省力作業体系の確立等に取り組み、供給量の増加や生産者の所得向上に向け支援を継続することを申し合わせた。</p> <p>○本年はかき、びわ、もものいずれもカメムシの被害が大きかったため、関係機関と連携して対策指導を行う。</p>			
				<p>左：ファクトリーブランド会 右：柿の栽培講習会指導</p>

標 題	就農支援システムを活用し、就農希望者と受入農家（親方）のマッチングが成立		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年7月17日	場所	宇和島市	
指導対象	就農希望者（1人） 受入農家（5戸）	連携 機関	宇和島市、JAえひめ南	
普及指導 内容	<p>○「宇和島就農支援システム」により4月から約3か月間、就農希望者が2週間毎に5戸の受入農家（親方）の下で就農体験を実施した。</p> <p>○同システムによる就農体験が7月で終了したことから、就農希望者と5戸の受入農家の意向を把握し、マッチングを支援した。</p>			
結果と今後	<p>○受入農家（親方）1戸との間でマッチングが成立したことから、親方のもとで就農に向けて1年間の農業研修を本格的にスタートさせることとなった。</p> <p>○当室では、就農に向け新規就農者に対する支援メニュー（青年等就農計画の作成等）の中から必要に応じて適切な支援を継続する。</p>			
				<p>左：宇和島就農支援システムのフロー 右：親方のもとで農業研修スタート</p>

標 題	ラジコン草刈機等による畦畔管理の実証		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年7月30日	場所	宇和島市 津島町	
指導対象	農事組合法人増穂生産組合、農事組 合法人いわぶち（9人）	連携 機関	ヤンマーアグリジャパン（株）	
普及指導 内容	<p>○スマート技術の導入により水田畦畔管理の省力化・軽労働化を図るため、ラジコン草刈機等の適応性を実証した。</p> <p>○傾斜のある畦畔において、小型のラジコン草刈機とアームで操作する自走式草刈機などを使って草刈りの実演を行い比較検証した。</p>			
結果と今後	<p>○両機械の刈取り速度はほぼ同じであったが、傾斜が急であるため、ラジコン草刈機の操作が慎重となり、自走式草刈機の約2倍の時間がかかったが、参加者からは「それでも人への負担はラジコンのほうがはるかに軽い」という意見があった。</p> <p>○今後、労力不足が懸念される両法人に対しては、お互いが連携することも視野に入れて省力化のための技術を提案していく。</p>			
				<p>左：ラジコン草刈り機 右：各種自走式草刈機</p>

標 題	もも園における吸蛾類の発生状況を調査		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和6年7月1日	場所	松野町延野々	
指導対象	もも生産者	連携 機関	松野町	
普及指導 内容	<p>○松野町の主要果樹であるももにおいて、近年果実吸蛾類の被害が早まっている。</p> <p>○そこで今年度、7月中の毎晩18時～6時の12時間、誘蛾灯を点灯し、主要な果実吸蛾類であるアケビコノハ、ヒメエグリバ、アカエグリバの3種の発生消長を調査した。</p>			
結果と今後	<p>○松野町のもも園では、アケビコノハとヒメエグリバ、アカエグリバが7月上旬から発生していることが確認できた。</p> <p>○同時に、袋掛けした果実を吸汁している害虫が確認され、果実吸蛾類に対しては袋掛けの効果が低いことが懸念された。</p> <p>○今後はこれらの調査結果をもとに対策時期、方法の検討を行う。</p>			
				<p>左：誘蛾灯 右：袋掛けしたももを吸汁しているアケビコノハ</p>

標 題	イネカメムシの発生に対応した早期米の出穂期 防除を呼びかけ		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和6年7月17～29日	場所	鬼北・松野地区内各地	
指導対象	水稻生産者	連携 機関	JA えひめ南、鬼北町農業公社、松野 町農林公社	
普及指導 内容	<p>○管内では、農業公社やJA、生産者が所有（一部作業委託）する無人ヘリやドローンにより早期米出穂期の一斉防除が行われている。</p> <p>○今年度は、斑点米カメムシに加えて白穂の原因となり減収につながるイネカメムシの発生が多いことを関係機関との病害虫発生調査等で把握したことから、出穂期と出穂後10日～2週間の計2回の防除を講習会や町内放送などで呼び掛けた。</p>			
結果と今後	<p>○防除実施により、カメムシ類の被害が軽減し減収抑制が期待される。</p> <p>○今後は、収量、品質の調査により、防除効果を確認するとともに、ドローンを併用した無人航空機防除による省力・高品質生産体制を地域に普及させていく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>斑点米カメムシ防除の解説 (早期米栽培講習会)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>大型無人ヘリによる防除 (機種：YAMAHA FEZER R) (積載容量：32L)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>大型ドローンによる防除 (機種：DJI T30) (積載容量：30L)</p> </div> </div>				

標 題	「つるむらさきの日」を県内で事前PR！		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年7月20日～21日	場所	末広マート立花店、道の駅みま	
指導対象	-	連携 機関	JA えひめ南	
普及指導 内容	<p>○記念日制定をきっかけとして効果的に本品目の認知度を向上させるため、県内量販店等の店頭において、消費者に対して直接売り込みを行った。</p> <p>○管内の直売所では、創業祭にあわせてカレーやじゃこ天等の事業者と連携してコラボ商品を販売するとともに、レシピ集を活用して食べ方を提案し、消費を促した。</p> <p>○松山市の店舗では、小学生向け自由研究企画を開催した。生産者が産地からPRし、今後観察できる苗の提供を行うことで、家庭で日常的に目にする機会を創出した。</p>			
結果と今後	<p>○当日は多くの方が訪れ、つるむらさきは、通常営業日の5倍以上の売上となった。</p> <p>○参加した生産者からは「定期的に購入している消費者がいる」「(つるむらさきが)着実に根付いていることを実感した」という意見を得ることができた。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>【「つるむらさきの日」とは】 毎年7月26日が対象。 由来は「なつ(7)」の「つるむらさき(26)」から。 JA えひめ南が一般社団法人日本記念日協会に申請し、令和6年4月に制定された。</p> </div> <div style="width: 30%; text-align: center;">  <p>レシピ集で料理方法を説明 (宇和島市)</p> </div> <div style="width: 30%; text-align: center;">  <p>画面越しに生産者が産地をPR (松山市)</p> </div> </div>				

標 題	県外でつるむらさきの販促活動&取扱状況調査		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年7月26日	場所	神戸垂水青果（神戸市）、スーパー 万代 宝塚東洋町店（宝塚市）	
指導対象	-	連携 機関	JA（えひめ南、全農えひめ）	
普及指導 内容	<p>○昨今の資材費や人件費の高騰等、生産コストの高まりに対し、本品目の単価向上を図るべく、関係機関と連携のうえ、作成支援したレシピ集やポスター等の販促資材とマネキンを活用し、「つるむらさきの日（7/26）」にあわせた量販店での試食販売を実施した。</p> <p>○当日は棚もちの良さや保存・料理方法といったPRポイントをマネキン担当にレクチャーするとともに、店舗担当者や市場関係者と本品目の取扱状況や販売額アップに向けて産地で対応可能な取組みについて意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○試食には多くの方が足を止めていたほか、レシピとともに数袋をまとめて購入する消費者も確認できた。また、店舗担当者からは「マイナー野菜であるが、手に取りやすい価格で販売できる貴重な夏野菜。こうした取組みを続けてもらうことで消費量も増加し、強気な単価設定にもつなげられる」といった前向きな意見が聞かれた。</p> <p>○今後、上記内容を栽培講習会等の場で生産者らに説明し、生産者を含めた関係機関で一体的に販促活動に取り組めるよう、意識向上を図る。</p>			
		<p>左：店舗担当者等と意見交換 右：マネキン担当者に一押し情報をレクチャー</p>		

標 題	南予儲かる農業人材育成事業に係る温州みかんのマルドリ栽培実証ほの設置		機関名	八幡浜支局地域農業育成室	
年月日	令和6年7月1日	場所	八幡浜市真穴地区		
指導対象	新規就農者（事業支援対象）（1人）	連携 機関			
普及指導 内容	<p>○南予儲かる農業人材育成事業（局予算）の一環で、温州みかんのマルドリ栽培による液肥の施用技術のモデル実証を行うため、八幡浜市真穴地区において実証ほ（約48a）を設置した。</p>				
結果と今後	<p>○実証ほでは、液肥の窒素の形態（アンモニア態、硝酸態）及び従来の固形肥料で栽培した早生温州について、樹体の生育や吸収状況、果実肥大や品質（糖・酸）等の比較・検討を行う。</p> <p>○さらに、実証結果を踏まえ、経験の浅い新規就農者でも取り組めるよう、温州みかんマルドリ栽培の栽培マニュアルを作成し、普及を図る。</p>				
<p>【窒素の形態】 窒素は多くの作物で硝酸態の形で吸収されるが、流亡しやすい性質を持つ。 一方、アンモニア態窒素は細菌によって硝酸態窒素に変換され作物に吸収される。</p>				<p>果実肥大調査 土壌水分計の水位測定</p>	

標 題	かんきつの摘果及びカメムシ防除等について講習会を実施		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和6年7月2日～18日	場所	伊方町三崎地区	
指導対象	かんきつ生産者（延べ77人）	連携機関	JAにしうわ	
普及指導内容	<p>○今年産は特に、樹による着果量のバラツキが大きいため、着果過多樹から優先的に摘果を行うとともに、着果不足樹のかぶさり枝の除去を行う等、樹の状態に合わせた結実管理を確実に実施するよう指導を行った。</p> <p>○また、異常発生しているカメムシについて、管内の発生や被害の状況について説明するとともに、被害軽減に向けた防除の徹底を指導した。</p>			
結果と今後	○引き続き、カメムシ等の病害虫の適期防除、気象の変化に迅速に対応した栽培管理について指導を徹底し、高品質果実の安定生産を目指す。			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>左：清見の摘果について指導する普及指導員 右：果実にかメムシが飛来している様子</p>				

標 題	∞農 Harvest 会員が他地区一次産業女子と交流		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和6年7月18日	場所	今治市上浦支所	
指導対象	一次産業女子（∞農 Harvest、今治・しまなみ地区）19人	連携機関	今治支局地域農業育成室・しまなみ農業指導班	
普及指導内容	<p>○他地域の一次産業女子との交流を深め、日頃の悩みなどを気軽に相談できる場を提供しようと、八西地区と今治・しまなみ地区の交流・研修会を実施した。</p> <p>○自己紹介や各組織・個々の活動紹介のあと、会員同士のアイスブレイクの場として、3班に分かれて意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○共通して柑橘農家が多い中、地域により違った考えや取組み方が分かることが分かり、工夫方法などを情報交換することで、新たな視点で営農を見直すきっかけとなった。</p> <p>○参加した会員からは「子育てと営農の両立を、他の方はどうしているか分かり、参考になった」「日頃抱えている悩みが共有でき、心強かった」といった声が聞かれた。</p> <p>○今回、子供連れで参加した会員もあり、気兼ねなく情報交換できた。</p> <p>○今後もより多くの一次産業女子が研修や交流に参加しやすい体制を整え、交流の場を設定する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>左：活動紹介をする会員 右：アイスブレイクの様子</p>				

標 題	かき「刀根早生」の着色促進技術の普及及び新たな実証を開始		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和6年7月～	場所	かき園地（内子町）	
指導対象	JA 愛媛たいきかき部会 「刀根早生」農家	連携 機関	JA 愛媛たいき	
普及指導 内容	<p>○秋季の高温による着色遅れが問題となっていることから、現地巡回指導を実施し着色促進に効果が高い環状剥皮技術を普及推進している。</p> <p>○環状剥皮は、2、3年生の強い側枝に処理すると効果が高いことや風で枝折れしやすくなるため支柱で固定すること、樹勢の低下を防ぐため全結果数の3割程度までとすることなどを指導した。</p> <p>○また、環状剥皮を補完する技術を確認するため、新たに植調剤の散布による着色促進の実証を開始した。</p>			
結果と今後	<p>○農家からは「環状剥皮を積極的に行うことで所得の向上を目指したい」との意見が多く技術実践の意欲が感じられた。</p> <p>○今後は、植調剤が着色促進や果実品質、樹勢等に及ぼす影響を調査していく。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-right: 20px;"> <p>【環状剥皮】 枝の樹皮部分を幅数cm程度環状に剥ぎ取ることで果実品質の向上等を図る技術。 葉で作られる光合成産物が枝葉に留まるため、果実の着色や肥大が促進される。</p> </div> <div style="display: flex; gap: 20px;">   </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> 環状剥皮に取り組む農家 SSによる植調剤の散布 </div>				

標 題	青年農業者ほ場で農業高校生が研修会を実施		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和6年7月3日（水）	場所	青年農業者園地（大洲市）	
指導対象	大洲喜多地区青年農業者連絡協議会 会員	連携 機関	県立大洲農業高校	
普及指導 内容	<p>○管内若手農家との交流を通じ、将来の職業として農業及び関連産業を選択する意識を高めてもらうことを目的に、大洲農業高校生を対象に現地研修会を開催し、生徒13人が参加した。</p> <p>○アグルビト（大洲青年農業者協議会）会員の河内氏から、自身の農業経営の概要や目指す目標等について説明後、ほ場で夏秋きゅうりの芽摘み作業を体験し、原木しいたけの栽培状況を見学した。</p>			
結果と今後	<p>○生産現場で研修会を実施することで、生徒は作業しながら気軽に会話ができ、双方の農業に対する意識について意見交換し、理解を深めることができた。</p> <p>○交流会は12月にも予定することとし、当班は、大洲農業高校と連携しさらに管内農業の魅力が伝えられるよう、さらに研修内容の充実を図っていく。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;">   <div style="margin-left: 20px;"> <p>左：芽摘み体験を行う農業高校生 右：原木しいたけほ場で集合写真</p> </div> </div>				

標 題	百姓百品で女性グループによる弁当販売を開始		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和6年7月16日	場所	百姓百品本店	
指導対象	生活研究協議会員及び百姓百品（株）	連携機関	西予市	
普及指導内容	○昨年まで城川町内で弁当製造を行っていた生活研究協議会員に呼びかけ、ほとんど使われていない百姓百品本店内にある加工所の有効利用について、協議の場を設けた。 ○協議の結果、新たにグループを結成し加工所を利用することになり、使用条件の設定や会則の制定等円滑な活動の開始に向け支援した。			
結果と今後	○新組織は、「どすこい かあちゃん 頑張ってみる会 ～ふるさとの味を伝え隊～」(通称「どすこい かあちゃん」)で、月、火、木の週3回、地域産物を使った弁当、ご飯もの、総菜等の製造・販売を行うこととし、利用を開始した。 ○百姓百品グループの農業法人で栽培する青ねぎや、地域農産物を多く使用し、地域に愛される弁当づくりを目指しており、当班はその活動を支援していく。			
				<p>左：「どすこいかあちゃん」のメンバー</p> <p>右：弁当 PR チラシ</p>

標 題	品質向上に向けた野菜栽培講習会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和6年7月19日	場所	レインボーアグリ	
指導対象	百姓百品（株）出荷者（8人）	連携機関	西予市	
普及指導内容	○当班では、野村地域の小規模農家等が生産する農産物や加工品の販路受け皿として、百姓百品（株）による産直販売の取組みを支援している。 ○出荷者への栽培指導の一環として、今年度より品質向上に向けた栽培講習会を年5回開催する計画としており、今回は、夏秋野菜の栽培ポイントや病虫害防除の説明をした後、座談会形式で、参加者の栽培管理や病害、鳥獣害対策等の質問に答えた。			
結果と今後	○参加者からは「消費者に喜んでもらえるよう新たな品目に挑戦したい」「病虫害の防除時期や方法がよくわかった」などの声が聞けた。 ○今後も、品質のよい農産物の販売に向け出荷者に対する栽培講習会の開催など、栽培指導を継続していく。			
				<p>左：夏野菜の栽培ポイントを説明</p> <p>右：栽培講習会の開催案内</p>

標 題	保水材で夏季の青ネギの生育促進を目指す		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和6年7月23日～	場所	内子町城廻	
指導対象	(株) フジファーム	連携機関		
普及指導内容	<p>○昨年実施した冬季育苗時の保水材試験では、保水剤区(かん水数2/3削減)の育苗時の生育は通常区に比べ良好となったものの、2月以降、降水量が多く、収量時での差は見られなかった。</p> <p>○これを踏まえ、青ネギでの保水剤利用は梅雨明けなど高温・少雨時が適当と判断し、夏季の定植時に生育促進を目指し、再試験することとした。</p>			
結果と今後	<p>○7月23日に保水材通常区と倍量区を設定し散布した。今後、2週間に1回程度、生育調査し、効果を検証する。</p> <p>○かん水施設のないほ場では、夏季に大量の水の運搬等が必要なため、この技術への生産者の期待は大きい。</p>			
				<p>【保水材】 水分を保持する働きを持ち、環境にも配慮した生分解性の資材。砂漠化防止のための緑化等に使用。</p>
保水材		保水材を試験区へ散布する様子		

標 題	東予地区におけるさといも栽培管理の意識統一		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和6年7月18日	場所	東予管内さといもほ場	
指導対象	東予地区さといも技術協議会	連携機関	JA 全農えひめ、東予地方局、県農林水産研究所等	
普及指導内容	<p>○現時点の栽培状況や今後の栽培管理のポイントを確認するため、各JA(うま、えひめ未来、周桑、おちいまばり)の4ほ場を巡回し、現地で技術対策を検討した。</p> <p>○高温・乾燥による葉焼けが懸念されるため、定期的なかん水の実施により芋の肥大を促進させるほか、疫病やハダニ類等の病虫害防除を徹底すること等を申し合わせた。</p>			
結果と今後	<p>○JA担当者からは、「各地域の栽培管理や生育状況、注意点が把握できたので、農家指導に役立てたい」等の声が聞かれた。</p> <p>○今後も関係機関と連携し、当協議会活動を支援するとともに、さといもの生産性向上に向け、栽培管理指導に取り組む。</p>			
			<p>【東予地区さといも技術協議会】 東予地区のさといも生産者の栽培技術の高位平準化を図るため、全農えひめ、JA 営農指導員、愛媛県で構成する協議会</p>	
生育状況を確認				

標 題	県育成水稻品種「ひめの凜」穂肥講習会の開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和6年7月18日～7月30日	場所	県内7JA（延べ15回）	
指導対象	「ひめの凜」認定栽培者	連携機関	JA（全農、うま、えひめ未来、周桑、越智今治、今治立花、東宇和、えひめ南） 各地方局・支局地域農業育成室 農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○当課では、「ひめの凜」認定栽培者を対象に、高品質・良食味生産のための栽培技術と認定制度を説明するため、栽培講習会を開催している。</p> <p>○今回は、穂肥及び後期管理をテーマに実施した。</p> <p>○当グループからは、今後の気象予報と高温年の留意点について説明を行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、穂肥診断や高温年の肥培管理について質問が寄せられた。</p> <p>○引き続き8月2日～5日に2JA（えひめ中央、松山市（延べ3回））で、同講習会を開催する。</p>			

【穂肥】

出穂前に施す追肥。この時期の追肥は品質、食味に影響するため、施用時期、施用量は、穂肥診断により決定する。

【「ひめの凜」栽培者認定制度】
同品種の品質管理徹底とブランド米として普及・定着させるために設けられた制度。



室内研修



現地研修

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々 1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543